

名称	きもつきしれきだいほち 肝付氏歴代墓地	区分	記念物	種別	史跡
所在地	鹿児島市 喜入町				
<p><地区範囲地図></p> 	<p><文化財写真・遠景></p> 				
<p><文化財周辺拡大地図></p> 	<p><文化財写真・近景></p> 				
<p><概要></p> <p>肝付家は、文禄4年(1595年)以降、270年あまりにわたって、喜入を治めてきた一族で、幕末に活躍した小松帯刀は11代領主・兼善の子として生まれている。この墓地は五段からなり、肝付家12代のうち、3代から12代までの領主をはじめ、一族の墓がある。また、菩提寺であった玉繁寺代々の住職の墓も見られる。墓石は壮大で豪華なものが多く、五輪塔をはじめ形もさまざま、刻まれた文字も明瞭である。墓地の上段には、宝永6年(1709年)に建てられた首なし地藏菩薩や玉繁寺の住職が記した石碑が残る。</p> <p>墓地の北側は、肝付家の菩提寺であった玉繁寺の跡であるが、明治2年(1869年)に廃寺となり、今は耕地となっている。</p>					